

科目名	周術期医療基礎論	担当教員	森野 陽 佐藤 明紀 ※印は実務経験のある教員を示す。
-----	----------	------	-----------------------------------

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	専門基礎科目	必修	2年次	前期	1単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR23D	②					

科目概要	近年、周術期医療におけるリハビリテーションの必要性が高まっている。本科目では周術期医療におけるチーム医療ならびに代表的な疾患における周術期医療について学び、リハビリテーション職種としての周術期医療の役割に対する理解を深めることを目的とする。(オムニバス/全8回)
学習目標	① 周術期領域におけるチーム医療について理解できる。 ② 疾患ごとの周術期医療について理解できる。 ③ 周術期医療におけるリハビリテーション評価について理解できる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験 教員担当 項目
1	総論	オリエンテーション、周術期医療の概要 周術期におけるチーム医療	周術期のチーム医療における各職種の役割について理解できる。	
2	心肺蘇生法	心肺蘇生法と AED その他代表的な周術期の医療機器	心肺蘇生法ならびに AED の取り扱い方を知る。 周術期において用いられることの多い医療機器について理解できる。	
3	胸部疾患、腹部疾患の周術期	胸部疾患、腹部疾患に関する周術期医療	胸部疾患、腹部疾患における周術期医療について理解できる。	
4	集中治療	集中治療によってもたらさせる病態	ICU Acquired Weakness、Post ICU syndrom を中心に、集中治療によってもたらされる病態について理解できる。	
5	がんの周術期	がん患者(上皮性、非上皮性、造血由来)の特徴について	がん患者(上皮性、非非上皮性、造血由来)の特徴について理解ができる。	
6	周術期の評価	周術期に必要な評価について	周術期に必要な評価について理解できる。	
7	リンパ浮腫	リンパ浮腫に必要な評価と治療法について	リンパ浮腫の評価と治療法を理解できる。	
8	リスク管理	周術期で見られる主な合併症の理解と、その管理・予防方法について	周術期で見られる主な合併症の理解と、その管理・予防方法が理解できる。	
評価方法		筆記試験 50%、レポート課題 50%		
課題に対するフィードバック		1 講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。 2 定期試験・課題の解説などは、オフィスアワーの時間帯で対応する。		
教科図書		教員作成資料		
参考図書		日本リハビリテーション医学会、がんのリハビリテーションガイドライン策定委員会『がんのリハビリテーションガイドライン』金原出版、2013年 日本麻酔科学会・周術期管理チーム委員会(編)『周術期管理チームテキスト第3版』日本麻酔科学会、2016年 一般社団法人日本集中治療医学会編、集中治療における早期リハビリテーション 根拠に基づくエキスパートコンセンサス ダイジェスト版、2017年		

学習の準備	(予習・復習) 授業中に配布した資料を用いて、予習復習を行い、理解を深めること (180分)
オフィスアワー	非常勤講師は講義の前後。 常勤講師は、講義日の 16 時 30 分から 18 時
担当教員欄に※印を 附した教員の 実務経 験	